

萩にあしあと残そうよ

「梅雨明け、暑い夏の到来。」

令和3年(2021)
8月1日発行
—第30号—
発行：大塚好一



青空に青い海は最高です。

「日々の暮らし」

七月一日に、九州北部と中国地方が梅雨明けしたとみられると報じられました。末期に各地で豪雨がありました。幸い萩地域での被害はなかったようです。その後は全国的な猛暑、いつまで続くか心配になります。

ワクチン接種については、萩市観光協会のとりまとめにより、私の予約より十日早く集団接種を受けられることになり、八月上旬に二回目を終えられそうです。

休業の平日は、日中は部屋にこもっているため、朝のランニングで体を動かすようにしています。多少涼しくても汗だくになりますね。

「自由気ままな歌日記」

今日の花ベニバナと聞き
山形の高瀬に降りた
旅思い出す

(七月五日)

道沿いの草取りすれば
過ぎる人の労い受けて
心も清(すが)し

(七月六日)

駐車場に袋を拾うことは減り
白いマスクは日々落ちている

梅雨明けの港は空を反射して
白い舳先が凛々しく並ぶ

(七月十五日)

この後の

猛暑をよそに走り出す
夜明けの頃の涼しさの中

先週に刈られたばかり道端の
草つんつんと立ち伸びる夏

(七月二〇日)

「あしあとノート」

◆広場の草刈りに参加◆

防災青年団の団長から声がかかり、船着き場の広場の草刈りに参加しました。参加したのは、町内会長や役員などを含む一人です。

この日はとても蒸し暑く、額から汗がばたばたと落ち、湿ったシャツが重たくなるほどで、午前中の四時間ほどの作業で、体力を消耗してフラフラで帰宅しました。

それほど疲れた体でしたが、水分と昼食のおかげでまもなく回復し、夜にはご褒美に配られた缶ビールをおいしくいただくことができました。ちなみに、八月にこの広場で開催される盆踊り大会は、今年も中止となりました。

◆観音院の美しい佇まい◆

山陰本線玉江駅の近くにあるお気に入りの建築、それは潮音山観音院です。指月山の西側を流れる橋本川に沿う、玉江集落の一段上に建ち、対岸から見ると二層の観音堂の均整のとれた美しい佇まいに惹かれます。



宝形造屋根。

現在の観音堂は、嘉永六年(一八五三)に再建されたもので、藩政期には海の守護堂として信仰を集め、玉江浦の灯台としての役割も担っていました。萩八景遊覧船に乗って見るのも一興ですよ。



対岸から望む観音院。

◆夕方はぎマルシェ◆

月に一度のはぎマルシェ、七月は初めて夕方に開催されました。午後四時から七時半まで、多少雨に邪魔されましたが、今回はバンド演奏や高校生による縁日コーナーもあり、いつもより賑やかな雰囲気となりました。会場は毎回萩中央公園です。

次回八月は午前九時から午後一時までで開催とのこと。試行錯誤しながら催しを育てている様子が伺えます。



市内でもひととき立派な山県有朋の騎馬像を囲む会場。

◆今夏も菊ヶ浜で海水浴◆

菊ヶ浜海水浴場が開設されたので、海水浴&日光浴&運動のため早速泳ぎに出かけました。子どもたちは夏休みに入り、東京五輪に伴う四連休ということで、暑さを避けて多くの人が繰り出しています。少し泳いで甲羅干し、また少し泳いで仰向けに寝転ぶおじさんを、誰も気に留めてはいないでしょうね。

サーフパンツを履いて自転車に乗り、片道約三〇分。荷物はタオルと小銭と飲み物程度で、財布や携帯は持っていないきません。身軽が一番です。何度泳ぎに行けるかなあ？

◆ 厳島神社の夏祭りの景 ◆



船名が書かれたカラフル
なのぼりが立ちます。

明神池のほとりにある厳島神社は、萩藩二代藩主毛利綱広が、安芸の宮島の厳島明神を勧請したのが始まりです。

これにちなんで明神池と呼ばれるようになったそうです。

そして、旧暦六月一七日は厳島神社の管絃祭、今年は七月二六日でした。当日は行けませんでした。のぼり旗や大漁旗が並ぶ様子を目にするのができました。この時期は大潮で、海中で海とつながっている池の水位もかなり高く、普段歩いている場所が水没していて驚きました。



神社参道の両脇に
大漁旗が揺れます。

◆ 本州最西端・毘沙ノ鼻 ◆



夕日スポット。

下関市毘沙ノ鼻は、本州最西端の地です。ひよんなことから、寮の隣人の運転手として下関市内へ行ったついでに訪ねました。とりあえず、到達の記録ということ。

◆ むつみひまわりロード ◆



4ヘクタールに 25 万本と
いう規模だそうです。

春に一面の菜の花畑を紹介したのを覚えていますか？その萩市高佐地区の圃場では、夏本番を迎えひまわりが咲きそろいました。そろそろ見頃というタイミングを見計らって行ってみると、午前八時過ぎにもかかわらず、既に多くの人が足を運んでいました。やはり一見の価値あります。



ちなみに、
7月31日。

◆ 河川・海岸一斉清掃 ◆

萩市環境美化週間に伴う河川・海岸一斉清掃が実施されました。朝の一時間程度ですが、組のみなさんと園地や歩道の草取りをしました。

この四月に利用を開始した大学の寮（廃業したホテルを改装）の学生も参加し、高齢者の多い地域に若い力が加わったと喜ばれています。

〔波間のエッセイ〕

『公衆トイレを使うたびに』

日中や夕方のランニングと比べて、早朝に走る際に困ることといえば、急にお腹がゴロゴロしてくることです。これは思いどおりにはなりません。そんな時にありがたなのが公衆トイレです。そして、利用するたびに、山形県上山市の「春雨庵」を訪ねた時のことを思い出します。



春雨庵（山形県上山市）
(2015.7.8)

まず、春雨庵について紹介しておきましょう。ここは江戸時代の初期に、沢庵禅師が流され、三年ほど過ごした庵です。たくあん漬の考案者とも言われる、あの沢庵和尚ゆかりの場所なのですね。場所ほかみのやま温泉中心部の新湯地区から、細い小径を登った先で、趣のある茅葺屋根の建物の中に沢庵禅師像が鎮座しています。

近くにお住いの人がお礼にペーパーを置いていったことが分かります。感謝の気持ちをそつと返しておく心遣いに心温まり、こうして今でも記憶に残っています。

私もこの人を見習い、松陰神社前の公衆トイレと、日々管理してくださっている方にお礼の気持ちを表したいという考えを持っています。

上山は歌人斎藤茂吉のふるさと。茂吉は次のように詠み、春雨庵敷地内に歌碑が建っています。

上山に籠居したりし沢庵を
大切にせる人しおもほゆ

（上山に流され閉居していた沢庵禅師を、当時の土地の人々は温かく接し大切にしてくれた。その人々の温情がひとしお思い出されることだ。）※意識をパンフレットより引用しました。



沢庵禅師の像。
(2015.7.8)

前置きが長くなりましたが、話の主役の公衆トイレは、道を隔てて建っています。その個室の中だったか、手を洗う場所だったかは定かではありませんが、未使用のペーパー数個が置かれ、一筆添えられていました。

『先日、散歩の途中に急にお腹が差し込んで辛くなったところ、こちらのトイレを利用しました。困っていた時に本当に助かりました。…』